

DUET デュエット

GUIDE DOG MAGAZINE

2012.4
VOL.21



～誰もが
歩きやすい
街づくり～

ご存知ですか？
身体障害者補助犬法

おまけの
ページ



GUIDE
DOG
PHOTO
STUDIO

募金箱設置店募集中

認定NPO法人 全国盲導犬施設連合会 募金箱



サイズ
幅:13cm
奥行:16cm
高さ:25cm

子犬募金箱



サイズ
幅:14cm
奥行:21cm
高さ:33cm

成犬募金箱



サイズ
幅:14cm
奥行:21cm
高さ:27cm

パトラッシュ募金箱

©NIPPON ANIMATION CO., LTD.

まずは、お気軽にお電話ください。

☎03-5367-9770

都道府県別の盲導犬実働数
1,067頭 🐾🐾



北海道…62	埼玉県…58	静岡県…49	鳥取県…4	佐賀県…7
青森県…5	千葉県…37	愛知県…39	島根県…10	長崎県…8
岩手県…19	東京都…108	岐阜県…8	岡山県…19	熊本県…15
宮城県…15	神奈川県…56	三重県…10	広島県…34	大分県…16
秋田県…17	新潟県…30	滋賀県…14	山口県…20	宮崎県…14
山形県…7	富山県…5	京都府…19	徳島県…6	鹿児島県…17
福島県…14	石川県…29	大阪府…66	香川県…7	沖縄県…9
茨城県…24	福井県…4	兵庫県…56	愛媛県…14	
栃木県…9	山梨県…17	奈良県…15	高知県…11	
群馬県…8	長野県…24	和歌山県…8	福岡県…24	

2011年3月31日現在

社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 自立支援部会 盲導犬委員会「平成22年度盲導犬訓練施設年次報告書」より

DUET

2012年4月発行 編集人/篠田 林歌 認定NPO法人 全国盲導犬施設連合会発行
〒160-0007 東京都新宿区荒木町18-7 四谷長岡ビル202号室
TEL.03-5367-9770 FAX.03-5367-9771 www.gd-rengokai.jp 年1回4月発行

～誰もが歩きやすい街づくり～



ご存知ですか？ 身体障害者補助犬法

「身体障害者補助犬法」…皆様は聞いたことがありますか？
この法律は2002年に成立し、今年で10年目となりました。
今回のDUETでは、「身体障害者補助犬法(以下、「補助犬法」)」
をご紹介します。
ぜひ皆様にご理解いただき、補助犬を使用する
身体障がい者を受け入れることが当たり前の社会になることを願っています。

身体障害者補助犬とは？ 補助犬はペットではありません

【盲導犬】…目の不自由な方が安全に目的地まで
行けるよう、角や段差を知らせ
たり、障害物を避ける等、
歩行をサポートする犬

【介助犬】…手足の不自由な方の為に物を拾ったり、
運んだり、服の着替えを手伝う、扉を
開閉する等、生活のサポートをする犬

【聴導犬】…耳の不自由な方の為に玄関の
チャイムを聞いて来客を
知らせたり、音のするものところへ
連れて行く等、生活のサポートをする犬

それぞれ、指定法人から認定を受けている犬のことを
いいます。略して「補助犬」と表現されます。
☆このパンフレットでも、「補助犬」と略して表記して
います。

法律の目的と内容

障がい者の自立と社会参加を進めるために

補助犬を訓練する事業者と補助犬ユーザーの義務を定め、身体障がい者が施設
などを利用する場合に、補助犬を同伴することができるようにするための法律です。

【補助犬ユーザーは】
補助犬の体を清潔に保ち、予防接種、検診を受けさせ、
公衆衛生上の危害を生じさせないよう努めなければなりません。

【訓練事業者は】
補助犬として適性のある犬を選択し、必要とする身体障がい者の状況に合わせた
訓練を行い、質の高い補助犬を育成しなければなりません。

補助犬はお店にも入れるし、乗り物も乗れます

【受け入れ側】
公共施設、電車やバス、お店、ホテルなどの宿泊施設、病院など不特定多数の
人が利用する施設の管理者等は、その管理する施設等を身体障がい者が利用
する場合、補助犬の同伴を拒んではならない、としています。

また、2007年の法改正により、障害者雇用促進法の適用職場
(常勤従業員56名以上)では補助犬同伴で勤務ができるようになりました。

【都道府県・政令指定都市・中核市は】
相談窓口を設置し、補助犬ユーザーや、受け入れ側施設の管理者等から
苦情や相談の申し出を受けたときは、必要な助言、指導、関係行政機関の
紹介などを行います。

【国民は】
補助犬ユーザーに対し、必要な協力をするよう努めなければなりません。

もし補助犬ユーザーが、補助犬同伴拒否をされている場面に出会ったら、
「補助犬の同伴は法律で認められていますよ」と温かいお声掛けをして
いただけると助かります。



補助犬の健康管理はユーザーの手で



清潔に保つために
ブラッシング、
シャンプー



排泄もユーザーの指示で



病気を予防するため
検診、予防接種も
欠かさず行っています。

抜け毛が飛び散らないよう
洋服を着せたりすることも…。

盲導犬ユーザーからの相談

評判のお店で美味しい料理を食べたい、コーヒーを飲んで一服したい、誰もが望むことであり、盲導犬ユーザーにとってもそれは同じです。補助犬法成立から10年経った現在でも、理解を得られず盲導犬の同伴を理由に、入店・利用を断られるケースがあります。実際に、ユーザーから盲導犬協会へ寄せられた相談をもとに、いくつかの特徴的な事例をご紹介します。

ケース1 大手飲食チェーン店

店員から「犬はお断りしています」と言われたので、盲導犬であることを説明し、店長への確認をお願いした。翌日、電話で問い合わせたところ、店長へ確認していただいていたようで、「認識不足ですみませんでした。またご来店下さい」との事だった。

ユーザーのコメント
「盲導犬同伴について、きちんと店長さんへ確認をしていただけだったが、うれしかったです。こちらのお店は今もよく利用しています」



ケース2 工場見学

グループで工場見学に行ったところ、一部、盲導犬を同伴して入ることを断られる場所があった。

盲導犬協会が、工場側に盲導犬受け入れについての説明を行ったところ、工場側は、見学者への対応マニュアルを改正し、工場内のすべての見学コースを盲導犬同伴でまわることができるようになった。

工場側のコメント
「保健所にも相談したところ、盲導犬の同伴は衛生面でも問題ないとの指導を受けました。今後は受け入れていきたいと思っています」



ケース3 観光センター

センター内の喫茶室で盲導犬の同伴を断られた。

後日、盲導犬協会の職員を招き、従業員に向けた盲導犬ユーザーの受け入れについての研修会が企画された。

施設長のコメント
「どのように対応すれば良いのかがよくわかりました。次回からは、スムーズに受け入れることができると思います」

ケース4 レストラン

職場からの帰宅途中、おなかが減ったのでレストランに入ろうとしたところ、犬がいるからお店に入ることが断られた。

翌日、盲導犬協会がレストランに連絡を取ったところ、補助犬法を知らなかった為、その時は断ってしまっただが、以後、受け入れるとの回答だった。



店長のコメント

「実は、断った日の晩に、家で妻にその話をしたところ、なぜ受け入れなかったのか、と叱られました。補助犬法がある、ということを知った時に聞き直しました。申し訳なかったと思っています」



ケース5 病院

家族が入院したので、見舞いに行ったところ、盲導犬がいることを理由に、病院の中に入ることができなかった。盲導犬協会から病院に説明を行ったところ、受診目的での来院だけでなく、見舞いの時も盲導犬を連れて院内を移動することを認めていただいた。

ユーザーのコメント

「入院している家族がとても心配でした。盲導犬がいなくて、病院へは行けないので、ご理解いただけて本当に良かったです」

この他にも、「『盲導犬は泊まれません』とホテルから断られた」、「タクシーに乗ろうとしたら、盲導犬同伴を理由に乗車を断られた」等、数多くの相談が寄せられます。

盲導犬の為の特別な施設、設備は必要ありません。盲導犬の食事や世話もユーザー自身が行いますので、誰もが気持ちよく利用できるようご協力をお願いします。

補助犬OKの気持ちはステッカーで表示を

全国盲導犬施設連合会では、盲導犬や介助犬、聴導犬を受け入れることを示していただくための「補助犬同伴可ステッカー」を作成しています。このステッカーを店頭にご貼っていただくことにより、一般のお客様に補助犬に対する理解を深めていただくとともに、補助犬ユーザーの方々が安心して各施設を利用できることを趣旨としています。



「補助犬同伴可ステッカー」についてのお問い合わせは
全国盲導犬施設連合会にお電話(03-5367-9770)、
もしくは連合会ホームページをご覧ください。



街中のあらゆる場所に温かい心を伝えるために、どうぞご協力ください。

～盲導犬の一生～

①誕生

盲導犬に適した血統を持つ繁殖犬から盲導犬の候補犬は生まれます。生後2ヶ月頃まで、母犬のもとで暮らします。



②パピーウォーキング

パピーウォーカー(子犬を飼育するボランティア)の家庭で、愛情をこめて育ててもらいます。この期間に、人間との信頼関係を築き、社会のマナーも学びます。

③訓練スタート

1歳になると、盲導犬訓練施設に戻ってきます。

約6～12ヶ月間、盲導犬になる為の訓練を受け、その間に盲導犬としての適性が評価されます。



④出会いそして共同訓練

盲導犬としての適性が認められた犬は、視覚障がい者と出会い、共同訓練に入ります。

そこで視覚障がい者は、盲導犬と安全に歩くための歩行指導を受けます。また、それ以外にも、犬の世話や健康管理の方法など、知っておくべき知識やマナーも学びます。さらに視覚障がい者の生活エリアでの歩行指導も行います。共同訓練を修了後、盲導犬とそのユーザーの生活がいよいよスタートします。



⑤共に歩く

盲導犬ユーザーとなった後も、必要に応じて訓練施設によるフォローアップが行われます。盲導犬とユーザーは互いに協力し、パートナーとしての絆を深めていきます。盲導犬とともに歩くことで、ユーザーは安全で快適に出かけることができます。



⑥引退

盲導犬は10歳から12歳頃を目安に引退します。引退した盲導犬は、ボランティアの家で暮らしたり、育った訓練施設で十分なケアを受けながら暮らします。



～盲導犬ユーザーからのメッセージ～

日常の外出は一人でもできるようにになりたいと思った事がきっかけで、盲導犬ユーザーとなり、今年で27年目になりました。ユーザー歴が長いので、乗車拒否や入店拒否などの経験は多々あります。

これはだいぶ以前のことで、飲食店へ団体で入ろうとした時に、「犬は困りますので外につないでください」と言われました。その当時は、盲導犬もそれほどメジャーではなかったので、仕方なく外につないでいたのですが、今度は「その子が吠えるから困る」と言われ、結局お店を出たことがありました。



笠トクアさん/
パートナー・イエリー
(九州)

私は、ユーザーとして後ろ指をさされることのないように、盲導犬の健康管理や衛生面、しつけには気を付けています。毎日のブラッシング、毎月の動物病院の受診は欠かしませんし、雨の日はレインコートを着せ、飲食店に入るなら毛が散らないように洋服を着せ、周囲へも気を配っています。でも、現在でも補助犬自体は浸透してきたように感じますが、受け入れや対応については、会社やお店、店員さんや運転手さんによってまちまちで、補助犬法の効果が浸透しているとは残念ながら、あまり思えません。また、今は補助犬もメジャーになった分、注目されることも多く、かえってユーザーの行動を狭めたりする場面もあります。例えば、雨の日、暑い日にも外出しなければいけない時もありますが、盲導犬を酷使しているとの偏見でクレームが入ったり、外出時に厳しくしつけをしていると、周囲の人には「かわいそうに」と受け取られてしまう。盲導犬はスーパードッグではありませんので、失敗もするし、言うことを聞かない時もあります。ユーザーは可愛がるだけではなく、時には厳しく接することも必要です。盲導犬とそのユーザー、お互いが成長していくためにも、ぜひ温かく見守っていただきたいと思います。

白杖歩行訓練を受けていた施設で盲導犬啓発キャンペーンが開催され、盲導犬との歩行を体験しました。白杖歩行とは比べ物にならない盲導犬のスピード感到に感動し、盲導犬貸与を申込みました。盲導犬ユーザーとなり、今年で25年目です。補助犬法が施行する以前は、例えば宿泊施設(温泉)に、「他のお客様に犬嫌いの方がいる」、「毛が飛び散り不衛生になる」などの理由により、盲導犬同伴での施設利用に難色を示されました。日頃の衛生管理の徹底などを伝え、理解を求めましたが、「ボイラー室へ犬を待機させるなら問題ない」という回答であった為、結局その宿泊施設は利用しませんでした。

今は、補助犬法が施行されたことにより、「補助犬同伴可ステッカー」(P4参照)を表示する店舗が増えたように感じます。盲導犬を同伴での利用も、飲食店では隣のテーブルとの間隔に余裕がある座席へ案内してくれたり、宿泊施設では、「事前に用意するものはないか」と確認してくれるなど、規模の大きい施設ほど補助犬同伴の施設利用に理解があるように感じます。また、タクシーなど交通機関などで乗車拒否なども無くなったように感じます。でも、補助犬法の存在は知っていても、具体的な法律の内容までは、まだまだ周知がされておりません。施設規模の大小にかかわらず、様々なお店で、この法律の正しい理解が進んでほしいと思います。私はドッグフードなど体調の管理に気を配ることはもちろんのこと、定期的なシャンプーや外出前にブラッシング、服の着用を欠かさず行っています。盲導犬を同伴しているからといって過剰な対応は特に望んでおりません。通常のお客様への対応と同じように、自然な形で盲導犬の受け入れも行っていただければと願っています。



森本 義弘さん/
パートナー・ユフィー
(北海道)

手助けするときは



盲導犬ユーザーが困っているようなときは、盲導犬ではなく、まずユーザーの方に「何かお手伝いしましょうか」と声をかけてください。

手引きの方法

目の不自由な人を安全に誘導する方法を「手引き」といいます。盲導犬ユーザーから「手引きをお願いします」と頼まれたら、盲導犬がいる側の反対に立ち、あなたのひじか、肩をユーザーに持ってもらい、ユーザーより少し前を歩いてください。



安全に誘導するには

「横断歩道を渡ります」、「階段を上がります」と声で状況を説明してください。また、自転車などの障害物には、ぶつからないように2人分の幅をとるなど、余裕をもって歩くようにお願いします。

温かいお声掛けをお願いします

盲導犬は信号の色を判断することはできません。信号は盲導犬ユーザー自身が、人や車などの音で渡れるかどうか判断し、盲導犬に指示を出しています。そのため、「青になりましたよ」、「まだ赤ですよ」と周りの方が、一言声をかけてくださると、とても助かります。



街で盲導犬ユーザーと 出会ったら



盲導犬は仕事中、「ハーネス」という白、もしくは黄色の胴輪をつけています。ハーネスをつけているときは仕事中です。

仕事中の盲導犬に 声をかけないでください

盲導犬はハーネスをつけているときは仕事に集中しているので、さわったり、声をかけたりしないようにしましょう。また、さわらなくても犬の目をじっと見つめるのもやめましょう。気が散って盲導犬ユーザーを安全に誘導できなくなってしまいます。

そっと見守ってください

何もしない人に対して、盲導犬がいきなり吠えたり、かんだりすることはありません。犬が苦手な場合は、目の見える人の方からそっと避けていただくと助かります。

盲導犬に食べ物を 与えないでください

盲導犬は盲導犬ユーザーとともに、規則正しい生活を送っています。健康管理のため、そしてトイレのタイミングをコントロールするため、食事の時間も決まっており、決められたものしか口にしないようにしているので、かわいい、と思っても食べ物を与えないでください。



盲導犬ユーザーが困っている様子だったら…
どうぞユーザーへお声がけをお願いします

GUIDE DOG PHOTO STUDIO

盲導犬、訓練犬、パピーたちの豊かな表情をお楽しみいただくページです。見ているこちらにも思わず笑顔になってしまいます。

ボクが先!

アタシが先!!

むむ!?
ごはんのニオイが!!!

仲良し♪

これはボクの!

たいくつ〜...

なになに!?

ニコニココンビ!

何を見ているのかな?

突進3秒前...

芝生大好き♥

こっちも仲良し♪

良いお顔!

オセロ??



募金箱設置協力企業

イズミヤ(株)

(株)エコス

(株)ゲオ

(同)西友

(株)ダイエー

(株)フジ

メットライフ アリコ

AHBインターナショナル(株)

(株)イトーヨーカ堂

(株)音通

(株)サークルKサンクス

(株)たいらや

(株)長崎屋

(株)マスダ

(株)LIXILビバ

敬称略・あいうえお順

以上の企業様のほか個人店舗設置の募金、企業や大勢の個人の皆様のご寄附・ご協力により、当連合会の活動は支えられ、運営されています。

認定NPO法人全国盲導犬施設連合会は、北海道から九州まで全国に点在する国家公安委員会指定の盲導犬訓練施設、8施設の連絡組織として活動し、一つの施設では取り組めないような全国規模の事業を行い、盲導犬事業の発展に努めています。皆様からお寄せいただいた募金・寄附は、加盟する8施設の盲導犬無償貸与事業にかかる費用として役立てられます。

全国盲導犬施設連合会の主な活動報告

盲導犬育成事業にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。皆様のご支援・ご協力で平成23年度の事業を行うことができました。誠にありがとうございました。

認定NPO法人化

平成23年10月、当連合会は組織運営及び事業活動が適正であるとして国税庁長官より「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認められました。これにより、平成23年10月16日以降、当連合会へ寄附をされた個人や法人は、税制上の優遇措置(寄附金控除等)を受けることができます。

資格認定事業

盲導犬を育成する盲導犬訓練士、盲導犬との生活を指導する歩行指導員の資格を確立して、知識・技能レベルの向上を図り、その社会的地位を高める資格認定事業を実施。全国で平成23年度は6名の訓練士、7名の歩行指導員を誕生させました。



盲導犬普及を進める広報誌を発行

・「DUET20号」を発行(年1回)。20号発行を記念し、盲導犬事業の歴史を特集しました。募金箱と一緒に常設し、ご自由にお取りいただいております。
・「盲導犬情報」6号・7号を発行。第7号は東日本大震災についての盲導犬ユーザー安否等の震災報告を掲載しました。



盲導犬受入の促進

・スーパーやお店、公共施設等で盲導犬の受入を表示する「補助犬同伴可ステッカー」の作成と配布を行いました。
・2011年度盲導犬受入ポスターを作成しました。募金箱設置協力先で掲示しています。



「盲導犬普及啓発活動」を全国で32回実施

募金箱設置協力店の御協力を得て盲導犬の啓発イベントを実施しました。出会う機会の少ない方々に盲導犬を知ってもらうための活動に積極的に取り組んでいます。



パトラッシュの募金箱ができました



©NIPPON ANIMATION CO., LTD.

パトラッシュ基金

全国盲導犬施設連合会と日本アニメーションが発足した「パトラッシュ基金」では、募金箱の設置、チャリティーオークションの開催、各種イベントでの募金活動、インターネット募金の受付などの活動を行っております。詳しくは公式サイト、もしくは全国盲導犬施設連合会までお問い合わせください。

日本アニメーション株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座 7-11-14 uhbビル
TEL 03-3574-6281 (平日 10:00~16:00)
公式サイト www.nippon-animation.co.jp/pattrash/



MetLife AlicoSM

メットライフ アリコ



© 2012 PNTS

メットライフ アリコは 1995 年以来、
盲導犬育成活動を支援し続けています。

〒130-0012 東京都墨田区太平 4-1-3 オリナスタワー
Tel 0120-880-533 (お客様相談部) www.metlifealico.co.jp

国家公安委員会指定 加盟施設一覧



認定NPO法人
全国盲導犬施設連合会

〒160-0007 東京都新宿区荒木町18-7 四谷長岡ビル202号室 TEL 03-5367-9770 FAX 03-5367-9771

HPアドレス: www.gd-rengokai.jp

公益財団法人 関西盲導犬協会

会長 串田 壽明 HPアドレス: www.kansai-guidedog.jp

〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町犬飼末ヶ谷18-2
TEL 0771-24-0323 FAX 0771-25-1054

京都に盲導犬を育成する団体を!と願う市民が集まり1980年に発足しました。多くの方々からご支援いただいていることを励みに、視覚障がい者が安全に外出し安心して暮らせるよう、質の高い盲導犬の育成に努めてまいります。



社会福祉法人 日本ライトハウス

理事長 木塚 泰弘 HPアドレス: www.lighthouse.or.jp

法人本部 〒538-0042 大阪府大阪市鶴見区今津中2-4-37
TEL 06-6961-5521 FAX 06-6968-2059

盲導犬訓練所 〒585-0055 大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202
TEL 0721-72-0914 FAX 0721-72-0916

「自立と社会参加のためのパートナーシップ」を基本理念とし、視覚などに障害のある方が、尊厳をもってその人らしい生活ができ、積極的に社会参加をすることを共通の目標として、活動しています。



社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

理事長 岸田 衛幸 HPアドレス: www.moudouken.org

〒651-2212 兵庫県神戸市西区押部谷町押部24
TEL 078-995-3481 FAX 078-995-3483

平成13年に誕生した新しい協会です。役職員一同、情熱を持って盲導犬育成に取り組んでいます。また盲導犬希望者、使用者に誠実に対応し、それぞれのニーズにあったサービスを提供しております。



公益財団法人 九州盲導犬協会

理事長 田中 久也 HPアドレス: www.fgda.or.jp

事務局 〒810-0062 福岡県福岡市中央区荒戸3-3-39
福岡市市民福祉プラザ内
TEL 092-714-3169 FAX 092-714-3176

総合訓練センター 〒819-1122 福岡県糸島市東702-1
TEL 092-324-3169 FAX 092-324-3386

「良質な盲導犬を一日でも早く、一頭でも多く届けたい。」当協会創業以来の変わらぬモットーです。総合訓練センターでは、盲導犬使用者の皆様にご利用いただける施設としてサービスの向上に努めてまいります。



公益財団法人 北海道盲導犬協会

会長 志田 恭司 HPアドレス: www.h-guidedog.org

〒005-0030 北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1
TEL 011-582-8222 FAX 011-582-7715

最北端に位置する当施設は雪道歩行、在宅指導、老犬ホームなど、視覚障害者の支援と安心のために様々な取り組みに挑戦しています。待っている人達の笑顔のために、一刻も早く応えることが目標です。



公益財団法人 東日本盲導犬協会

代表理事 磯崎 久喜雄 HPアドレス: www.guide-dog.jp

〒321-0342 栃木県宇都宮市福岡町1285
TEL 028-652-3883 FAX 028-652-1417

視覚障害者に対する地域リハビリテーションを重視し、地域に根ざした良質なサービス提供を心がけています。関東一円を中心に、盲導犬の育成・提供をはじめ、白杖歩行の訪問指導、生活訓練なども行っております。



公益財団法人 日本盲導犬協会

理事長 井上 幸彦 HPアドレス: www.moudouken.net

東京本部 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
TEL 03-5452-1266 FAX 03-5452-1267

日本盲導犬 〒418-0102 静岡県富士宮市人穴381
総合センター TEL 0544-29-1010 FAX 0544-54-3030

神奈川 〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町6001-9
訓練センター TEL 045-590-1595 FAX 045-590-1599

仙台 〒982-0263 宮城県仙台市青葉区茂庭字松倉12-2
訓練センター TEL 022-226-3910 FAX 022-226-3990

島根 あさひ 〒697-0426 島根県浜田市旭町丸原155-15
訓練センター TEL 0855-45-8311 FAX 0855-45-1139

昭和42年に厚生省の許可を受け、日本で最初に設立された盲導犬育成団体です。4つの訓練センターの特色は、神奈川には訓練士学校があり訓練の中心地、仙台は視覚障がいリハビリ、富士宮は出産～引退犬まで一貫飼育、島根は受刑者のパピープログラムです。



財団法人 中部盲導犬協会

会長 殿塚 猷一 HPアドレス: www.chubu-moudouken.jp

〒455-0066 愛知県名古屋市港区寛政町3-41-1
TEL 052-661-3111 FAX 052-661-3112

「両手持ち」を特徴とした盲導犬の育成。かつて身を挺して盲導犬使用者を交通事故から守った盲導犬「サーブ」を育てる。視覚障害者の「安全なガイド」と「心の癒し」を保証するために日々努力しています。

